

## 5月5日 “キッズの日”は“キズケアの日”



医療法人こころ満足会 形成外科 KC 新城 憲

皆さま、ご存じのように“形成外科”は、体表面全体を治療対象とする外科の一領域です。診療内容は、創傷外科、再建外科、先天異常、腫瘍外科、美容外科など広範囲に及びます。形成外科医は、先天的・後天的な変形・異常を『手術により、機能的・整容的に再建・修復する』ことで、患者さんの社会復帰の手助けとQOL (quality of life) の向上を目標にしています。その過程で、ケガや手術後に生じたキズあとが、できる限り小さく、目立たないよう全力を尽くします。

さて、日本形成外科学会は、日本専門医機構における19基本診療科のひとつです。急性・慢性を問わず、我が国の創傷全般を担う専門家集団・学術団体として、サブスペシャリティのひとつ、日本創傷外科学会を2008年に設立しました。

外傷(ケガ)は、日常生活で最も頻度の多い疾患ですが、それゆえにケガによる「キズやキズあとを早く、きれいに治すこと」は社会のニーズです。病気に対する早期診断・早期治療という言葉が浸透し、予防医学に国民の目が向けられている現在、外傷についても同様の姿勢が求められます。日本創傷外科学会は、創傷治療の基本はもちろん、熱傷・外傷などの急性創傷や褥瘡(床ずれ)・下腿潰瘍などの慢性創傷、ケロイドや肥厚性瘢痕などを対象に、より高度な、学術的な研鑽をする場です。その中で積み重ねられていく研究の成果とともに、適切に創傷が治る方法が、わかりやすく国民にも周知され、“キズあと”の予防に繋がることを期待します。

「日本のケガ・キズ・キズあとは、形成外科医に！」のキャンペーン活動のなかで、5月5日の「子供(キッズ)の日」と「傷(キズ)」をかけて、『キッズの日はキズケアの日』が、日本記念日協会に登録されたのは2017年でした。時を経て、学会のマスコット・キャラクター

“なおるん”(図1)の活発な啓発が始まり、「キズ・キズあとガイドブック」も刊行されました(添付QRコード)。子供の日を「キズケアの日」と位置づけることで、医療や看護などの現場で働く人たちだけでなく、一般の方にも、キズの予防や応急処置の重要性が高まることを期待します。子どもたちの健やかな成長を願い、『健康管理に対する意識』を、さらに高め、確立する機会となれば、「キズはなおるんだ」。

日本形成外科学会・日本創傷外科学会認定  
キズ・キズあとガイドブック



各種キズの治療法については、日本創傷外科学会ホームページをご参照ください。



5月5日は子供の日!  
“キッズの日”は  
“キズケアの日”  
形成外科はキズ(創傷)・キズあとを治す  
プロフェッショナルです。

日本形成外科学会 日本創傷外科学会では外傷(ケガ)などによってできるキズ、またその傷跡(キズあと)の治療には専門医がいることの啓発活動を行っています。  
詳しくはWEBで「形成外科・創傷外科」検索

日本形成外科学会 / 日本創傷外科学会  
本活動は賛社の協力のもと行っています。

お問い合わせ先: 日本形成外科学会 事務局(〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1) 電話: 03-5561-1111  
日本創傷外科学会 事務局(〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1) 電話: 03-5561-1111

図1